

えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 89 号	2008年12月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	------------	---

1. 活動報告（事務局 記）

— 12月5日（金）餅つき準備

— 12月6日（土）ビオトープ最大のイベント収穫祭 Part-1（餅つき）を完行しました。

正味2俵以上もあった合鴨農法で作ったもち米を45臼つきました。

参加者は会員31名、自然観察隊隊員32名、父母会員22名、二俣瀬子ども会12名、父兄4名、小学校校長および先生2名、車地会員奥さま3名 総勢106名でした。

各自がたくさんの餅の土産を手にとり収穫祭をお祝いしました。

— 12月20日（土）収穫祭 Part-2（蕎麦打ち）を行いました。

夏の暑い日種をまいて順調に育ちましたが、播種域が狭かったこともあり8kgのそば粉しかなく、会員の方にはそば打ちが少ししかできず残念でした。何とか8・2の混合粉で「里山自然観察隊」隊員及び保護者会員にももれなく試食が出来ました。隊員20名、保護者会員17名、会員19名でした。今年の観察隊行事も終わりました。会員指導者の皆様にはこの一年大変ご苦労様でした。

午後よりは平成20年の忘年会を行って一年の行事すべて終わりました。参加は21名でした。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

今月来月予定はありません。

◎ 行事

— 1月4日（日）正月につき休み

— 1月17日（土）新年度の活動予定打ち合わせ

3. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

今月はありません。

4. 会員の声「ビオトープのカワセミ」（副会長 田村 勝芳 記）

9月下旬に友人から里山ビオトープ二俣瀬の池で撮ったカワセミの写真パネルを貰った。里山巡りをして何度もビオトープに来て小鳥等を撮って楽しんでいるとのことで、望遠レンズで池のヒツジ草を遠景に入れて杭の先端に止まり池の中の魚を狙ったショットは見事な作品である。

カワセミは羽の色から漢字で翡翠とも書きブッポウソウ目カワセミ科に分類され水色の体色と長いくちばしの特徴で背中が青、腹はオレンジ色をしたきれいな鳥である。この美しい外見から溪流の宝石とも言われており、水中に飛び込んで魚や水生昆虫を捕えて食べている。1羽で行動をして水上を早く直線的に飛び、えさ場の木の枝や石の上で休む姿が見られることが多い。ビオトープの池でもこの美しいカワセミの姿を見ることが出来ることを改めて知らされたので、多くの人に来ていただき里山の自然を楽しんでいただきたいと思います。

5. ビオトープ関連（ビオトープのトンボたち） 管 哲郎

（7）アオモンイトトンボ（イトトンボ科）

Ischnura senegalensis (RAMBUR, 1842)

本州・四国・九州・琉球列島に、国外ではアジア・アフリカに至る熱帯・亜熱帯地域に広く分布して、県内でも良くみられる普通のイトトンボです。

成虫は4月～11月上旬くらいまで見られ、汽水域から平地、丘陵地にかけて池や湿地、水田の溝や水路などに広く分布しています。

イトトンボの中でも一、二を争う獰猛な種のように、クモや同種のトンボを平気で襲って食べてしまいます。全長は35mmほどでやや小型、未熟な♀は体の一部が朱色をしておりよく目立ちます。老熟すると、くすんだ緑色に変わりますが、♂とそっくりな「同色♀」もいて、うっかりすると♂とまちがえます。

よく似ているトンボでアジアイトトンボがいますが、一回り小さく数も少ないのでよく見落としてしまいます。ビオトープにもいますので、おやっ？とおもったらよく観察してみてください。



アオモンイトトンボ（♂）



アオモンイトトンボ（♀）成熟



アオモンイトトンボ連結交尾



捕食中のアオモンイトトンボ（♂）

6. 会よりの連絡事項（事務局より）

（1）新入会員の紹介

- ①伊藤敏光 宇部市東須恵 2218-6 Tel 41-2543
- ②長尾 聡 宇部市文京台一丁目 22-8 Tel 32-2297

（2）1月17日（土）活動日は2009年度（平成21年度）活動案について協議します

- ① 総責任者制の提案（稲作収穫祭含む、そば栽培そば打ち含む、椎茸栽培）
 - ② 里山自然観察隊継続活動か？
 - ③ 合鴨農法の継続か？
- 等々協議します。

7. 編集後記

ビオトープも年数を重ねる度に植生の偏りがみられるようになってきました。よく草刈される草原ゾーンや、毎年耕転される田んぼやソバ畑は、植生の遷移がリセットされるのでこの限りではありませんが、湿地、ため池ゾーンは、スゲや外来の水草など、強い植物が過繁茂して、手作業によるエコアップでは手に負えなくなってきました。蓮田も合鴨農法を始めてからはカモの遊ぶ池になっているので、本来の蓮田の機能を果たしていません。スゲが茂る湿地は一度耕転して、ビオトープが開始した時の状態に戻してやる必要がありますし、5年後10年後にあるべきビオトープの将来像を念頭に置いた上で、やれることやれないことを整理して、毎月の作業計画を構築していく時期に来ているのではないのでしょうか。

（美濃和 信孝 記）

産地偽装は言うに及ばず、汚染米の不正転売や中国産冷凍餃子による中毒、そしてカップ麺への防虫剤成分混入、挙句の果てにはパンに縫い針混入などなど、食べ物の安全に関わる事件が相次いだ“子年”でした。毎月そんなニュースが報じられていた、という印象があります。県内でも東のレンコンに西のフグと、産地に偽りが……。

われわれは表示を信じるしかないのだけれど、日本も一人ひとりが自衛手段を持つとかなければならないご時世になってきているのでしょう。でも、アメリカのような社会には、なって欲しくないと思います。他人を端から信用するという日本の善さは、どこへ行こうとしているのでしょうか？

手入れをしない名ばかりの花壇スペースが、我が家にはあります。おまけに薬を使ったことがないので、カサブランカに至っては毎年葉を立派に茂らすものの花芽ができる端から食されてしまい、まともな花が咲いたためしがありません。

いっそのこと来年は野菜畑へとフルモデルチェンジするか！ “安全”を食べるために。収穫祭で頂戴したお餅を賞味しながら、独り呟いたのでした。

会員の皆様、良い新年をお迎えください。

（松原 吉雄 記）